

「防災行政無線屋外スピーカーからの定刻放送音源変更について」への意見

●意見

定刻放送の音源が変更になりましたが、違和感を持つ一人です。それは、ピアノやバイオリンの音色、曲が、防災無線用の大型スピーカーからの出力に相応しいのかということです。定刻を示す音源なら、発想が古い、個人の感想と言われるでしょうが、イギリスのビッグベンのような鐘、お寺の梵鐘、そして「チロルの鐘」のような通りがよい音源でシンプルな曲の方が聴きやすく分かりやすいです。

ピアノ、バイオリン演奏者の方々が近年の江府町に大きく貢献されていることは町報等承知していますし、素敵演奏を拝聴したこともあります。コンサートを開いて、参加者の皆さんが朝、昼、夜に相応しいと思われる選曲をされたことも伝わります。しかし、この演奏を防災無線に乗せるということには、無理があるように感じます。ピアノとバイオリンの音源ありきでこの企画が進んで来たようですが、演奏は町でコンサートを企画して生で聴くのがベストではないでしょうか。演奏の素晴らしさや曲の良さを毎日の定刻放送に乗せるだけではもったいなく、大きなミスマッチを感じます。繰り返します。定刻放送はシンプル音源と曲がいいし、演奏は別途生で聴く方がいい。

変更を必要とする理由に、「音が外れている」という声が多数あったとあります。それなら「チロルの鐘」の音源を修正すれば済みそうなものと思いますが、そうすることは不可能またはする気はなかったということです。結局この問題の前提には、「チロルの鐘」の老朽化が、もっと言えば「奥大山チロルの里づくり構想」のフェードアウトが関係しているように思いますが考え過ぎでしょうか。

平成元年、「奥大山チロルの里づくり構想」の中で、上之段広場に「チロルの鐘（正式名称 ふるさとの鐘）」が出来て30数年経ちます。以前はスウィングベルとして機能し、ベルが動きながら季節の童謡等を奏でていたと記憶します。ところが、いつの頃からかベルは動かなくなり、録音された鐘の音源で曲が流れるようになりました。素人には分かりませんが、スウィングベルに不具合があったのでしょうか。音程のズレもその辺りに起因するのではないのでしょうか。担当者さんから、月替わりの曲変更等のご苦勞を聞いたこともありますので、老朽化も含めて管理が大変だったのでしょうか。

地域のシンボルとなる大きな構造物は、出来たときは輝いていても維持管理が大事で、全国的にも老朽化で見向きもされなくなった構造物の部品落下等の危険があり、立ち入り禁止になっている例もあるようです。今回の音源変更で、録音されたものであるにしても「チロルの鐘」の音を定刻放送に使うことは道が閉ざされました。ですから、上之段広場の「チロルの鐘」の存在は、単にモニュメントとして建っているだけのものになってしまいました。と言うことは、「チロルの鐘」も前述の例と同じ運命を辿ることになるのでしょうか。そうならないことを願うばかりです。

ところで、「チロルの里」構想で町づくりが進められていた頃、「チロルの里はどこにありますか？」という江府町を訪れる方々からの問いに、どう紹介しているのか戸惑いがありました。でも、スウィングベルはもちろん、学校や駅舎、福祉センター等の建物が「チロル風」に建てられたり、中にはステンドグラスも施されたりしました。駅舎の名称、イベント名等にも構想は生きていたように思います。えびちゃんの大先輩にあたるキャラクターも作られ、その名称や駅舎名も公募され決まりました。以前、町長さんのブログ「人が人を呼ぶ」（2021年3月29日）の中で、「誰か（キャラクターの）名前をご存知ないですか？」と尋ねておられ、名

付け親の方がコメントしておられたことがありましたが、結局今はその程度の認識なのだろうなあということがよく分かりました。

また、復活したせせらぎ公園「あやめ館」壁の表示からも、いつの間にかキャラクターだけ外してあります。町政として一体何があったのか、どういう理由なのか知りませんが、町民に説明のないまま「チロルの里」は過去の話となりました。

横道に逸れましたが、決してノスタルジーに浸って「チロルの里」に拘っている訳ではありません。「チロルの里」を維持、継続して欲しかったと言うのでもありません。失礼な言い方になるかもしれませんが、新しい取組が始まろうとする時、先人達が辿って来られた町政の歩みが、いとも簡単に退けられようとしている気がして残念に思うのです。

定刻放送の話に戻ります。おそらく、音量調整等しながら流していけば、町民の辛口の反響があってもすぐに後戻りはできないでしょうから、時間が経てば人々の耳は慣れて定着していくことなのでしょう。年月が経てば、曲や音源が再び変更されることなのでしょう。でも、その時、上之段広場のスウィングベルの方はどうなっているでしょうね。かつての江府町のシンボルとして、変わらず存在しているのでしょうか。それとも残念な姿を晒しているのでしょうか。

最後に余談ですが、北海道の真ん中、少し日本海よりの所に、江府町より人口も面積も少ないが人口密度は江府町の2倍以上ある「秩父別（ちっぷべつ）」という町があります。そこにも1基のスウィングベルがあり、「鐘のなるまち」としてアピールしています。30年ほど前に、開拓が始まってから100年を記念して作られたようで、高さ30メートル、らせん階段で人も上ることができ、つくことのできる鐘も設置してあります。開拓時代の屯田兵のために実際にあった鐘に因んで作られ、1日3回、1分間ずつ鳴り、時報を伝えているそうです。町民がどう聴いておられるかは知りませんが、先日訪れた際、実にシンプルで清々しい朝6時の時報の鐘を聴きました。防災無線の定刻放送で、「不易流行」を具現化するとはどういうことなのでしょうね。私は、江府町の現状と未来を見据え、住民の幸福を願いながら、多くの新たな取組を進めて頂いていることに感謝と敬意を表する者です。担当の皆さんの前向きな取組に対して水を差すようで心苦しく、また、目を通してもらうだけで何も変わらないだろうなと半ば諦めの気持ちもありながら、これは単に定刻放送音源変更だけの話ではないとの思いをまとめてみました。

(回答)

このたびは、お忙しい中、ご意見をお寄せいただきありがとうございます。

防災無線の音源について、鐘の音のようなシンプルな音源が良いとのご意見とお見受けしました。今回音源を更新するにあたり、「マンネリ化」をなくそうとの考えもあり、これまでは鐘の音の音源を流していましたが、江府町内でも活躍されている方に相談したところ、快諾いただけましたので実施した経緯があります。

防災無線で定刻の放送を開始した時代は丁度チロルの里構想がスタートしたのと同時期にあたり、江府町のシンボルでもあった「ふるさとの鐘」の音色を、有線を使用して防災無線を通して流していました。その後さらに、防災無線のデジタル化等にあわせ、録音した音源に変えております。もともとは、【投稿者】様のコメントにもありますように、「鐘」そのものの音色が上の段広場周辺のみ聞こえていたものです。

このたび音源を変更しようとした経緯は冒頭に書いた通りですが、音程のズレについては「鐘」の修繕が不可能であり、修正することができないことから別の方法を選択することといたしました。目を通してもらうだけで何も変わらないだろうな」と半ばあきらめの気持ちでというお言葉がありましたが、町民のみなさまからのご意見は、よりよいまちづくりにつなげる貴重なご意見です。今回の音源についても、コンサートを開催し、町民のみなさまのご意見により決定させていただきました。今後もこのような機会を設けていきたいと考えています。

定時放送の音源以外のコメントにつきましてはご意見として頂戴いたします。